

地域防災計画について



井上 芳弘
(日本共産党)

問 兵庫県の山崎断層（被害想定）等の見直しがあった。加西市の地域防災計画でも、山崎断層をはじめ、有馬高槻断層帯、六甲淡路島断層帯、東海・東南海・南海地震、大阪の断層帯もその対象となっている。見直しによる影響は。

答 当市では、山崎断層帯の主要部と、草谷断層の同時連動が起こった場合の被害想定が一番大きくなります。今回この連動による震度6の想定が震度7とされたことで全体の被害想定が大きくなったと思いますが、加西市の場合はもともと震度7の想定としているため、根底が

ら見直さなければならぬといった変化はありませんが、9月開催予定の防災会議で修正を行いたい。

問 災害が起きたときに、防災計画の中身が職員の末端まで、あるいは連携機関を含めてしっかりと機能するかが大事。通常の台風災害、ため池災害、土砂災害時に原点を防災計画に置いてどう動くかという訓練が必要では。

答 昨年の12号台風ですら職員に不慣れな部分がありました。情報伝達等についても遅れや混乱があったことは事実です。その反省も踏まえ、指揮系統等、研修・訓練により、計画を机上のものとしないうり取り組んでいきたい。

問 今度の防災計画について、原子力災害の中身は反映されないのか。

答 原子力（災害）については、一

一般質問

市のみでできるものではなく、知見も有していません。県全体の指導、計画に従って取り組んでいきたい。

意見 加西市が実施している放射能の測定も（一つの）対応だと思う。兵庫県が想定しなくても、東北を中心に自治体ではさまざまな対応がされている。事例は多くあり、独自に（防災計画に）組み入れることもできるはず。（使用済）核燃料の対応が明確になっていない事業を継続させるのは非常に危険なことで、自然再生エネルギーを大幅に活用する時代をつくっていかねば根本的な問題は解決しない。

■その他の質問項目

- ・ 財政について
- ・ 入札制度の改正について
- ・ 住宅リフォーム助成について
- ・ 施策の周知について

議会報告会を開催しました

3月定例会の議会報告会を開催しました。今回は1会場で全市域を対象に開催しました。

■開催日時：平成24年5月12日（土）
13時30分～15時30分

■開催場所：加西市健康福祉会館 大会議室

■出席議員：全議員

（役割）司会：植田通孝

報告者：井上芳弘、高橋佐代子、三宅利弘

記録者：衣笠利則、深田真史

■参加者：68名

■内容：【第1部】3月議会の報告

【第2部】意見交換（人口増対策について）

■いただいたご意見と回答

【3月議会の議案について】

- 加西市名誉市民条例の制定について、政治家は省いたほうがよいと思うが議論されたか。
→同様の意見もあったが、多数決で決まりました。
- TPPの問題について議論されたか。
→昨年9月議会の一般質問で取り上げました。行政側は、国が検討しているため、賛成・反対の回答はありませんでした。また、22年度の議会で、TPP反対の意見書を国に提出しています。
- 河川の草刈りはどうなっているか。
→市が委託をされ、地元自治会に草刈りをお願いしています。
- 平成24年度の予算は、市長の公約である5万人都市再生と総人件費2割削減がどのように取り入れられているか。
→市長、副市長、教育長、管理職はすでにカットを行っており、一般職もこの4月からカットをしています。
- 議会だよりに、介護保険料は北播磨で加西市が一番安いと書いてあるが、基金の取り崩しをもう一度精査されてはどうか。
→もっと低くできないか議論しましたが、介護サービスの見通しがつかず、基金を使い切ってしまうと、次の負担増につながる。基金をどれだけ使うかは市の判断です。
- 行政事務委託契約について、契約は各区長とし、委託料は代表区長に支払われている。予算ではその議論をされたか。
→予算委員会では当該委託料の議論はありませんでした。補助金の精査・改善を求める意見がありました。
- イノシシ・シカ対策について、多くの人が困っており、もっと力を入れて対策してほしい。
→24年度は2,498万円の対策費を計上し、防御柵の設置を予定しています。議会でも繰り返し議論されています。ハード面だけでなく、隣の町と連携した手立てをとる指摘もありました。



【人口増対策について】

- 都市計画マスタープランについて、地縁者住宅地にアパートや集合住宅を建ててほしい。
→規制が厳しく、一戸建てしか認められていない状況。新たな住宅地開発のため、区画整理を西高室で行っています。
- 小野市のように、若い人が子供を連れて生活しやすい福祉施策が必要だ。
→加西市ではこれまでに、水道料金の1割値下げや中学3年生までの医療費無料化など行っています。一つずつ解決していくことで、人口増対策につながると考えます。
- 消防署の跡地等を活用し、市営住宅や県営住宅を早く建てることで人口増につながる。
→議論していきたい。
- 加西市が小野市より負けられない施策は。
→加西市の自然、花と緑をもっとPRすべき。市外の年配者に、老後はここに住もうかというPRが大事。また、教育も魅力的。これからも教育レベルをあげていくことは、人口増の一つの施策。
- 将来、学校を統合するのははっきり決めてほしい。
→財政が非常に厳しく人口が減る中で、事業をおさえて何もせず、健全化だけを目指していいのかという意見もあった。学校問題はこれまで議論してきたが、残してほしいという声が圧倒的でした。
- 障がい者やお年寄りが安心して暮らせるような福祉が人口対策で大切だと思う。
→障害福祉計画が策定され、きめ細かなサービスを提供するとしており、その点を理解しながら、頑張っていく予定です。

【議会報告会について】

- 今回の報告会は、参加人数が非常に少ない。もっと頑張って参加者を集めてください。
→これまで中学校区でやってきたのを、1ヶ所に集約するものではありません。「夜は参加できないが、昼なら」という声もありました。いろいろな形で報告会に取り組み、どのような会が有効なのか、よく検討して次の会に臨みたい。

※詳細な内容については、議会ホームページをご覧ください。

鳥獣被害（シカ）対策について



織部 徹
(21 政会)

問 鳥獣被害対策は、現在、農家が抱える一番頭の痛い問題。網や柵を巡らすための労力は大変なものがある。柵を巡らし、猟友会による駆除など対策が講じられたが、抜本的な解決になっていない。改めて昨年度と本年度実施される対策についてお聞きする。侵入防止柵や猟友会による駆除も継続的に実施することは必要だが、守りの対策だと思う。そこで、もう少し攻めの対策は考えられないのか。学識者や専門家などによる、シカ対策検討委員会を立ち上げ、低木でどのような葉が茂る木や、木の実がなる木が必要かなど、シカが里

に出てこなくても済むようなことを検討してみてもどうか。いまの山は荒れており、下草が生えたり、葉が茂った低木も育っていない。侵入防止柵を設置し、また猟友会による駆除対策をしながら、一方で専門家の意見を聞き、間伐、下刈り、植樹をするなど里山を再生することを考えてみてはどうか。市が500万、600万の予算をとり整備をすれば雇用促進事業にもなるし、こんな提案をしたいと思うが、考えを聞きたい。

答 県下でも年間3万頭のシカの捕獲を目標にさまざまな施策を行っています。昨年度は、有害鳥獣捕獲駆除事業でシカ19頭、シカ個体群管理事業として25頭、県のシカ緊急捕獲拡大事業に市独自で報奨費を上乗せして285頭の合計329頭を捕獲しています。平成24年度は、450頭を目標に進めていきたい。防止柵では、23年度は2町

一般質問

で3,480メートル、24年度は約3倍の9,250メートルを予算化しています。獣害対策としては、駆除する、侵入を防ぐ、山と農地間のバッファゾーンをつくるなどを集落単位で勉強していただくため、地域振興部で出前講座を用意していますが、PR不足で利用されていません。市のメニューとして里山整備事業があり、集落全体で山の整備を行っていただければと思います。平成24年度は、そういったことを一切合財ひっくるめ、加西市で1ヶ所モデル町として勉強していただきたいと思っています。

要望 効果の出る事業として頑張っていたら、モデルが普及して、シカの被害が少なくなるようにお願いしたい。

■その他の質問項目

- ・ ライフサイクルを見通した障害者施策について